

「富民報徳・富国有徳の日本」を創ろう！

氏に訊く

私は「富民報徳・富国有徳の国」を目指しています。明治維新以降、日本は、近代西洋とともに「富国強兵」を目指しました。「富国」とは貧困の克服です。第二次世界大戦後も「富国」は追求され、世界有数の豊かな国となりました。しかし、子供の貧困率も高まるなど国内では再び貧困が発生しています。格差を是正し、健康で文化的な生活ができるように公助も必要ですが、それに加えて協同組合などの共助の非営利団体を振興することも必要です。「協同」「連帯」し、「共生」でき、「安心」して暮らせる社会を目指していくべきです。

そのような「富国」「富民」を改めて目標とし、「徳」や「文化」を高めていくべきです。文化とは「生き方」であり、「人間が人間らしく生きていくために欠かせないもの」と故山内克己磐田市長は仰っています。文化の振興は、「心の豊かさ」「品格の高さ」をもたらします。また、経済にも良い影響を与えます。文化力の高い国々は、デザイン性やブランド性の高い、付加価値の高い商品を輸出しています。日本はイタリアやフランスに対してはずっと貿易赤字でした。日本が今後も輸出競争力を確保していくためには、技術力や品質の高さに加えて、日本文化を背景にしたデザイン性やブランド性に富んだ付加価値の高い製品・商品を開発することも必要です。付加価値の高い商品を開発できる人材

は、一朝一夕には現れません。日本全体の文化力を高め、すそ野を広げることによって輩出されるのです。

文化とともに学術・研究の振興を図ることも大切です。文系・理系問わず自由に研究を行える環境が学術の発展に必要不可欠です。直ちに企業利益に結び付かなくても基礎研究の裾野の広さが新たな発明を生み出します。また、発明や発見には失敗がつきものであり、全てを「費用対効果」の発想だけで考えることは、かえって成果の芽を摘んでしまいます。文系の研究は、いかに異なる価値観を認め合い、違った角度から物事を見ることができかが大事です。文系の研究は、新たな社会のあり方、生き方、価値観を生み出します。デジタル化の進展の中で、新たな価値観や生き方が模索されており、文系の研究も必須であると思います。とりわけ、日本には、東洋と西洋の両方の文明・文化が存在し、それを調和・統合して世界にオンリーワンの新しい研究成果が生まれることも夢物語ではありません。

少子化を迎える中で、教育を充実することも重要です。青少年教育はもちろんのこと、中高年の再教育の仕組みの充実も図り、どんな立場や年齢であっても、思い立ったら学ぶことができる教育の仕組みをつくるべきです。OECD諸国で、財政に占める教育費への支出割合が最も低いレベルにあるのが日本です。文系・理系を問わず、教育への支出そのものを増やす必要があります。資源もなく、少子化が進む中、日本人のすべてに居場所があり、活躍できる場があり、自分自身を生かすことができ、生きがいを感じられれば、社会にも活力が生まれ、財政や経済にも良い影響を与えていくでしょう。

文化や教育の振興、今後の経済や会社経営を考える際に、大切なことが「報徳」の姿勢です。「報徳」には、私たちの中に先人達の営みによって既に与えられている環境や境遇に感謝し、それを生かす姿勢が込められています。今一度、日本という国に、そして私たちに受け継がれてきた文化や特性を発見し、それを現代に活かしていく、故榛村純一掛川市長が提唱された「報徳化」を進めていくべき時です。

～ブレずにまっすぐ！～

前衆議院議員

小山のぶひろ

